

学長のコラム

しみじみ思う平凡な日常生活の有り難さ。もうオールドノーマルには戻れないのか？

今月上旬に「令和 2 年 7 月豪雨」が発生し、県南部を中心に大きな被害が生じた。豪雨災害は西日本一帯に広がり、日本列島はコロナ禍に加えて複合災害列島と化している。本学の学生・教職員を含め、被害に遭われた方々ならびにそのご家族の皆さまに心からのお見舞いを申し上げます。

たびたびの災害に際して、被災者の方々が口にするのが「平凡な日常生活の有り難さに改めて気づかされた」という言葉である。「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」という一節は、枕草子の冒頭として誰もが知る風景である。熊大の病理時代にしばしば、人吉を訪れる機会があった。年に数回、人吉総合病院（現 人吉医療センター）での臨床病理検討会（CPC）に招かれて出かけていた。5 年間ほどは続いたであろう。近隣の先生方にも公開される集まりなので、検討会は夕方からの開始である。その晩は決まって人吉温泉でのんびりさせて貰った。翌朝目を覚ますと、球磨川の対岸に見える遙かな峰々に朝霧が立ちのぼり、枕草子の世界が広がり、心洗われる気持ちになるのである。今思うと、これが目的で人吉に通っていたのかも知れない。この景色、一体いつになれば戻ってくるのであろうか？

ウィズ・コロナの時代となり、日常生活にもニューノーマルが求められている。マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、旅行の自粛、演劇やコンサートの自粛、多人数による集会やパーティーの自粛、遠隔授業の導入、三密を避けた大教室での対面授業など、これまで経験したことのない不自由を強いられている。WHO のテドロス事務局長は、世界の政府の対応を批判して「あまりにも多くの国が間違った方向に進んでいる」との懸念を示し、「予見可能な将来においてオールドノーマル（これまでの標準）に戻ることはない。」と指摘している。果たして、オールドノーマルに戻れる日々は、一体いつになるのだろうか？

フランスの経済学者ジャック・アタリ氏はあくまで希望を捨てない。ポジティズムは楽観主義とは違う。傍観者ではなく、私達自らが知恵を出し合い困難を克服すべきだと訴える。オールドノーマルには戻れなくても、限りなく不自由さを排除したニューノーマルの構築は決して不可能ではない。



三密を避けた 1300L での COVID-19 の授業

7 月・8 月・9 月の主な行事予定

7/23 (木)	(海の日) 授業日
7/24 (金)	(スポーツの日) 授業日
7/26 (日)	Web オープンキャンパス (Web 個別相談会)
8/ 3 (月)	(看護学科 3 年次) 臨地実習 (~11/20)
8/ 7 (金)	(助産) 臨地実習適格認定書授与式
8/16 (日)	Web オープンキャンパス (Web 個別相談会)
8/21 (金)	FD セミナー (日本高等教育評価機構 事務局長 伊藤 敏弘「第三期認証評価のねらいと概要」)
8/23 (日)	チャレンジ熊保大 (Web 推薦選抜対策講座) (~9/6)
9/16 (水)	銀杏学園理事会
9/24 (木)	後期ガイダンス
9/25 (金)	後期授業開始
9/26 (土)	看護学科臨地実習合同研修会

※8/11~13、17、18 は計画年休日、8/14 は出勤日です。

新レストラン (旧アリーナ) 現在の様子

7 月 2 日 (木) に新レストラン (旧アリーナ) の工事現場に入り、内部の写真を撮らせていただきました。(「ぎんきょう 41 号」掲載) 内観の完成イメージ図に向けて、着々と工事が進んでいる様子でした。10 月の運用開始が待ち遠しいですね。(撮影：企画・人事課)

<工事の様子>



ローソンが入る空間



レストランカウンター



レストラン 1 階完成イメージ図



レストラン 1 階 (現在)



レストラン 2 階完成イメージ図



レストラン 2 階 (現在)

「基礎セミナー」学修成果発表

今年度の「基礎セミナー」は新型コロナウイルス感染防止への配慮の下で運営されており、ご担当の各先生方には多大なご苦勞をおかけしたことを思います。しかし、多くの皆様のご助力をいただき、成果発表の日を迎えることができました。今年度は例年のようにポスター発表や口頭発表は行うことはできませんが、アクティブ・アカデミー・アドバンスの WEB ホルダー (場所は改めてご案内します) を活用して学修成果を発表する予定です。開示機関は 7/29 (水) ~ 8/5 (水) です。諸制約のもとでの、各セミナーの頑張りをぜひご覧いただければと思います。(文責：共通教育センター長 東谷 孝一)

感謝の会

本学の開学以来、レストランの運用等でお世話になってきた「コンパス九州」様ですが、このたび本学との契約が終了することを受け、最終日の6月30日(火)に約40名の教職員参列のもとで、“感謝の会”を開催しました。

理事長、学長による感謝の言葉の後、最もレストランを活用したであろうと思われる今村局長と総務課の牛島さんからスタッフ代表の渡邊様と峰様に対して花束を贈呈し、スタッフの皆様(7名)お一人お一人に感謝の品を贈らせていただきました。

レストランのスタッフの皆様には、いつも学生たちに対して母親のように接していただきました。また、レストランでレセプションを開催する際には、そば打ちの実演を取り入れていただくなど、様々な工夫を凝らしていただきました。

長年にわたる本学への貢献に対して、心から感謝の意を表したいと思います。(文責：事務局長 河瀬 晴夫)



SD 研修会 (危機管理)

コンソーシアム熊本による危機管理に関するSD研修会が、崇城大学において令和2年7月8日に開催され、本学からは危機管理委員会事務局の3名が参加しました。

研修は、熊本学園大学の上野威彦氏による講義で危機管理の基本を確認した後、参加者17名が4つのグループに分かれてディスカッションをおこないました。各大学が新型コロナウイルス感染等の危機管理対策をお互いに紹介し、検討評価する貴重な経験となりました。

今後、本学の危機管理に少しでも展開できればと考えます。

(文責：総務課長 平緒 泰弘)



Web オープンキャンパス

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Webによるオープンキャンパス開催となりました。

従来ですと高校生に大学に来ていただき、大学の雰囲気を感じていただいたり、学生との交流をもっていたりしていましたが、今回はそれが叶わないため、Webでどのように大学の雰囲気を伝えたらよいかと広報委員会、オープンキャンパス実行部会で試行錯誤しながら、Webオープンキャンパスのページを作成しております。動画での大学紹介や学科ガイダンスの他、Zoomによる個別相談会を7/26、8/16に開催します。

教職員の皆さまも一度ご覧いただければ幸いです。

(文責：入試・広報課)

令和2年度 新任教員によるお披露目講演会及び昇任教員による講演会

6月30日(火)1300L講義室において午前と午後2部構成で新任教員7名(※講師以上)と昇任教員3名による講演会が開催されました。(発表者とテーマは以下をご参照ください。)昇任教員による講演会は初めての試みでしたが、とても有意義な講演会となりました。



(午前)

発表者	所属	テーマ
上仲 一義 教授	医学	ワクチンの研究及び開発
飯伏 義弘 教授	医学	臨床検査技師としての今まで・今から
立石 多貴子 准教授	医学	臨床検査における定量検査法の考案と検査データの品質向上を目指して
村上 美華 准教授	看護	エンパワーメントに着目した看護教育および研究の取り組み
薄井 嘉子 講師	看護	看護教育に対する抱負と看護職の成長にかかわる研究の取り組み

(午後)

松尾 崇史 講師	リハ OT	半側空間無視患者の音源定位に関連する研究～トランスレーショナルリサーチの重要性～
山田 和慶 教授	リハ ST	機能神経外科と、その将来展望
久保 高明 教授	リハ PT	OneKUMAHO
申 敏哲 教授	リハ PT	YOUは何しに日本へ - 自分の人生を変えることは自分しかできない -
大塚 裕一 教授	リハ ST	これまでの研究、教育等の紹介と今後の計画～8年間をふりかえって～

(文責：企画・人事課)

TKUとRKKがPCR研修を取材(6/17)

熊本市と市医師会が協力して「PCRセンター」を開設するため、PCR検査を実施できる臨床検査技師の育成が求められ、本学の施設内で本学の教員がその方々の教育を実施しました。そのPCR研修の様子をTKUとRKKの各放送局が取材に来られ、医学検査学科 檜原教授、山本講師と河瀬事務局長が対応されました。(PCRセンター開設までは「私の秘話ヒストリー」をご参照ください。)

取材内容は以下の日程で放送されました。(文責：企画・人事課)

TKU 6/17(水) 夕方のニュース 18:14頃～

TKU 6/17(水) TKUニュース 20:55頃～

RKK 6/17(水) 夕方のニュース 18:27頃～



TKUの取材の様子



RKKの取材の様子

私の秘話ヒストリー

今回は医学検査学科の山本 隆敏 講師に投稿していただきました。

7月6日(月)から運用開始された新型コロナウイルス検査の熊本市・熊本市医師会PCRセンター立ち上げに際し、本学にてPCR研修を行いました。研修は5月中旬から6月末まではほぼ毎日、座学・実技・検査マニュアルの作成・PCRセンター運用案の作成と大変内容の濃いものを実施することができました。実技研修を実際にPCRセンターで使用する機器・試薬を用いて実施することができ、本番を想定した研修ができたのではないかと思います。6月末からの現地研修では熊本市環境総合センター職員の方々との協力し、熊本市として統一した手法を研修者は取得できたのではないかと思います。PCRセンターは運用開始されていますが、研修者と密に連絡を取り、今後も協力を継続していきます。

PCR研修を受け入れるにあたり、協力いただいた危機対策本部、事務局、生物毒素・抗毒素共同研究講座、総合研究室運営委員会、PCR研修WGの皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。